

会社概要

社名／東洋合成工業株式会社
設立／1954年（昭和29年9月27日）
本社／〒272-0012
千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-8080 FAX：047-327-8055
資本金／1,618百万円（2007年6月22日現在）
事業内容／有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売
画像形成用の感光性材料等の製造並びに販売
電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売
電池材料並びに電気二重層材料の製造並びに販売
倉庫業、貨物運送取扱業
従業員数／364名（2008年3月31日現在）

お問い合わせ先

東洋合成工業株式会社 環境安全部
〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL.047-327-8075 FAX.047-327-8055
URL:<http://www.toyogosei.co.jp>

事業所

本社
〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-8080 FAX：047-327-8055

東京営業所
〒104-0032 東京都中央区八丁堀四丁目13番1号（八丁堀東興ビル2階）
TEL：03-3552-3200 FAX：03-3552-2575

ヨーロッパ営業所
Teleport Towers, Kingsfordweg 151,1043GR
Amsterdam, The Netherlands.
Phone：+31 (0) 20-491 9509
Fax：+31 (0) 20-491 7340

高浜油槽所
〒272-0125 千葉県市川市高浜町7番地
TEL：047-395-2151 FAX：047-396-7049

市川工場
〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地
TEL：047-327-2121 FAX：047-327-8067

千葉工場
〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1番51
TEL：0478-87-1111 FAX：0478-87-0333

感光材研究所
〒270-1609 千葉県印旛郡印旛村若萩四丁目2番地1
TEL：0476-98-3361 FAX：0476-98-3364

プロセス開発研究所
〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1番57
TEL：0478-87-1525 FAX：0478-87-0333

千葉第二工場
〒289-0623 千葉県香取郡東庄町宮野台1番55
TEL：0478-87-1701 FAX：0478-87-1721

ENVIRONMENTAL REPORT 2008 環境レポート

環境方針

ご挨拶 1

サイトレポート 環境・安全に関する取組み

市川工場 2

千葉工場 3

高浜油槽所 4

感光材研究所 5

環境に対する影響

大気・水質 6

PRTR 7

エネルギー 8

廃棄物及び再資源化 9

環境への取組み 10

労働安全衛生の取組み 11

化学品の安全管理及び最近の動向 12

地域社会とのコミュニケーション 13

環境方針

東洋合成工業株式会社は電子部品製造用材料の生産、調合香料用材料の生産、化学製品の生産に使う溶剤のリサイクル、液体石油化学品の省エネルギー物流等を通じて社会に貢献します。私達はこの企業活動で地域社会が負う環境負荷が最も低く抑えられるよう努めます。会社の活動が地球環境の改善に貢献できるように指向します。

1. 目標

環境保全と安全操業を経営の重要課題と位置付け、各事業所は内に向かっては「社員の安全と健康」を、外に向かっては「地域環境の保全」を念頭に企業活動を推進します。

2. 法の遵守

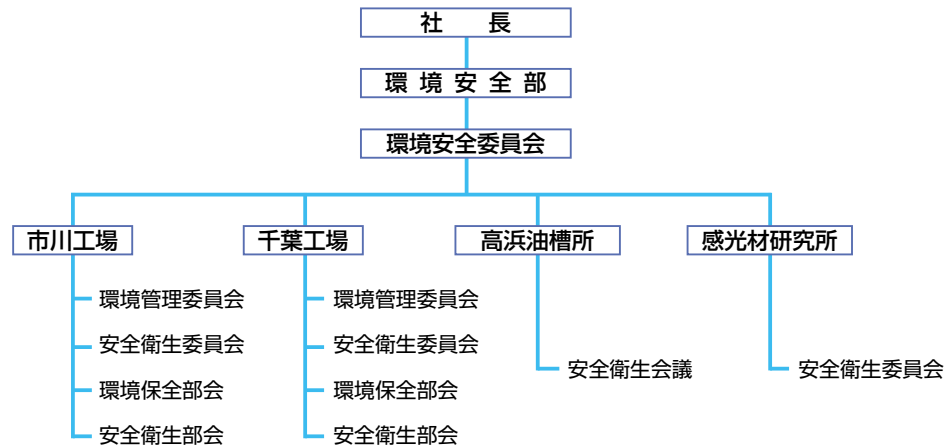
環境保全の諸法令を遵守し、地域の住民の声にも耳を傾けるように全従業員に徹底します。

3. 具体的な取り組み

- 1) 生産活動の中で、大気、河川に放出する化学物質の低減を最優先課題とし、改善の長期計画を作成しそのプログラムに沿って毎年低減させます。また、環境への負荷、排出量を公表します。
- 2) 蒸気、電力の消費を節減し、毎年生産される製品のエネルギー原単位の低減に努めます。
- 3) 廃棄物の発生量削減と自社内での無害化処理を促進し、廃棄物の3R (Reduce, Reuse, Recycle) を推進します。
- 4) 新規化学物質のみならず、国際的な既存化学物質の安全性見直しに適合するように、再評価を行います。また、試験生産の段階より従業員の健康に及ぼす影響や、環境に及ぼす影響も評価し企業活動に反映させます。

東洋合成工業株式会社 代表取締役社長 木村正輝

環境・安全管理の組織



ご挨拶

弊社は近年、各事業で多額の設備投資を続けてまいりました。この設備投資は生産能力の増強であると同時に、環境安全対策、ヒューマンエラー削減達成の計装制御充実に力を入れた投資でした。高浜油槽所、市川工場では増設貯蔵タンクに、大気中に取扱溶剤の臭気が出ないペーパーリターン配管を設けました。また、タンクやローリーで積み込みすぎ事故が起きた場合溶剤があふれぬように、定量充填機能も備えました。さらに、市川工場、千葉工場の生産工程のほとんどに、原料仕込量を定量に行う設備、反応温度、圧力を一定に制御するDCS(分散制御システム)を導入しました。しかし、それでも人手で作業しなければならない工程があります。千葉工場のこの工程で昨年11月13日、感光材製品の包装作業中に火災が発生し、尊い二人の命が失われました。弊社は、この手作業の工程に、何重もの安全対策を施しておりましたが、結果的にこのような事故が起きてしまいました。実際、幾多の会社で災害が起こり、その原因を調べると、幾つもの想定外事象が積み重なって災害が起きています。東洋合成はこの事故の反省に立ち、安全操業と環境の保全是企業に課された永遠の使命であり、企業が存続する限りこれで良いということはなく、今日も、明日も、より完全を求めて日々努力を積み重ねていかねばならぬと決意しております。一方、中国、インドなど新興工業国による工業製品生産のためのエネルギー・原材料の大幅な消費増加は、これら価格の想像外の値上がりを招いております。東洋合成の製品の多くは、上市以来生産量の増加と製造工程の改良で、コストダウンを図り値下げを行ってまいりました。59期の経営計画の収支は、これまでにない厳しい状況となりました。こうした環境の下、全従業員一致団結して環境・安全を推進し、かつ、経営を安定させる所存でございます。



東洋合成工業株式会社
代表取締役社長 木村正輝



市川工場 千葉県市川市上妙典1603番地

サイトレポート 環境・安全に関する取組み

市川工場



OSHMS活動板



簡易生物試験



市川工場長
古御堂 千秋

OSHMSの定着

2006年度に導入した労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)は、TPM安全衛生部会が中心となって積極的に取り組んだ結果、PDCAが回り定着してきました。2008年度は、さらに全従業員にOSHMS・リスクアセスメントを浸透させ、職場の危険有害要因を排除・低減し、労災事故をゼロにします。また、安全教育・防災訓練を充実させ、より実践的な訓練内容にしていきます。以上の内容について「OSHMS活動板」を設置し、市川工場の安全衛生活動に係る取組み・進捗状況について見える化を図りました。

産業廃棄物の削減と再資源化

2007年度に設備投資を行い、廃水処理場の負荷の一定化(調整槽:TOC濃度400±100mg/L)を図り、安定した処理を行っています。また化成生産工程から出る廃液の発生源の分別を確実にし、外注廃液処理をしていた産業廃棄物を極力自社処理してきました。さらに産業廃棄物の排出削減と再資源化を図るため廃油を分別回収して、ボイラー用燃料としての再利用を推進してきました。(2007年度実績:920t)

臭気・VOCの排出抑制

市川工場では、比較的匂いの強い香料材料の物質を扱っていることから、多様な臭気発生源に対し2006年度からペーパーリターン・スクラパー等の除去設備を設置してきました。合わせてタンク・装置等の洗浄作業手順の見直しを行いました。この結果、工場周辺の臭気は臭気測定器でモニタリングを開始した以前に比べ大きく改善されました。

また、2008年4月1日施行のVOC条例(揮発性有機化合物の排出及び飛散の抑制のための取組みの促進に関する条例)に対しても、今までの臭気対策に引き続き、VOC発生量抑制のための効率の良い対策に取り組んでいきます。



VOC吸収管



ペーパーリターン配管

千葉工場 千葉県香取郡東庄町宮野台1番51



溶剤精製設備



PSA設備



千葉工場長
浅岡 鎮夫

サイトレポート 環境・安全に関する取組み

千葉工場

火災事故と安全衛生への取組み

平成19年11月13日に千葉工場において発生いたしました火災事故におきましては、関係の皆様、近隣の皆様にご迷惑、ご心配をおかけしましたことを改めて深くお詫び申し上げます。

千葉工場として、この事故を極めて重く受け止め、二度とこのような事故を起こさぬよう、全従業員一丸となって安全管理を徹底し、再発防止に取り組み、信頼回復に努める所存であります。

事故原因の究明と再発防止につきましては、関係の監督官庁と協力しながら、第三者機関の特定非営利活動法人安全工学会にお願いしているところです。

また、原因調査報告と再発防止策の報告を待つだけでなく、危険可能性のある場所、作業の洗い出しを行いその改善を実施し、さらに避難を容易にするべく扉、通路の拡充も実施し、全従業員への指導、管理の徹底を図りました。

安全衛生管理体制の強化を具体的に実施するため、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を導入いたします。経営方針に基づく計画的、体系的な活動、リスク低減に主眼をおいた「先取り」的活動、PDCAサイクルによる安全衛生水準の段階的向上を目指します。

さらに、地域コミュニケーションプランを作成し、情報の開示を行っていきます。

臭気対策への取組み

本年度の優先課題をTMA対策、第二工場ボイラー対策、危険物倉庫対策および廃アルカリタンク対策の4項目としました。この対策検討を行い問題を解決していきます。



ベンゼン回収設備

ジオキサン廃液排出量の削減

昨年10月より、第一工場で発生していたジオキサン廃液を自工場内で、回収精製し再利用しています。さらに本年10月には、蒸留施設の強化工事を実施し、再利用率の向上をめざします。

ベンゼン廃液排出量の削減

昨年11月より、第二工場で発生していたベンゼン廃液を自工場内で、回収精製し再利用しています。また、PSA装置による大気放出防止対策も実施し、大気への排出量を削減しています。



高浜油槽所 千葉県市川市高浜町7番地



ペーパーリターン配管



荷役安全講習会



高浜油槽所長
石亀 義之

VOC排出抑制の取組み

高浜油槽所ではVOC排出規制の自主的取組みとして、一部のタンク外面に断熱塗装を施し温度上昇を抑えることで温度差による呼吸量の低減を図っております。それによって得られたデータをもとにVOC排出対策効果を検証しました。また荷役中のペーパー発生を抑えるため、ペーパーリターン配管の設置も順次行っております。

労働安全衛生の取組み

高浜油槽所では運送会社と合同で荷役安全講習会を実施しております。今回は2007年12月5日、32社が参加して実施しました。当社作業員とドライバーの指差呼称の励行と確実な作業手順を確認しました。また現場ではローリからのオーバーフローを想定し、実際にローリーを使い水によるオーバーフロー実験をして緊急時の操作を体験しました。

安全強化日の実施

安全に対する意識を身に付け注意力を喚起するため、毎月第2月曜日を安全強化日と決め、朝7時～終業時まで油槽所の全員が活動を行うことにしました。全員安全ロゴ入りのベストを着用し、さらに安全パトロール中ののぼりを掲げ、大きな声で指差呼称の励行をドライバーに呼びかけました。

大規模地震対策

港湾基準が改定となり、当社の栈橋についても想定される大規模地震による影響を知るためシュミレーションをして耐震の安全性評価を実施しました。この耐震診断結果から新基準に合わせた栈橋周辺の対策工事の検討をしております。

産業廃棄物の削減と再利用

従来より産業廃棄物の削減を目的とした廃油の分別回収を行い、回収した廃油は再資源化の推進としてボイラー用の燃料にしています。その結果2007年度は回収した廃油の約50%（40 t）を燃料として再利用できました。



安全強化活動

感光材研究所 千葉県印旛郡印旛村若萩4丁目2番1



感光材研究所



感光材研究所
所長代理 熊本 和夫

感光材研究所のインフラ整備

感光材研究所は設立以来12年が経過しましたので、建屋の外壁の全面改修及びエントランス庇の改修工事を実施しました。また、これまでは有機化合物の合成研究が主体でしたが、最近は機能性材料の研究開発が増加する傾向にあり、このために不可欠なクリーンルームの整備に着手しました。一方、当研究所の近隣には住宅地がありますので、環境安全面には充分留意しながらその対策を進めました。臭気対策として、実験室から出る排気の除害設備の強化を図りました。また、実験室からの排水についても、継続して中和設備などの保守管理を徹底していきます。

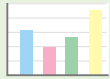
安全への取組み

昨年11月に千葉工場において重大な火災事故が発生しました。全社においても再びこのような不幸な災害が起らないように全員で取り組んでおります。感光材研究所は、市川工場で運用しているリスクアセスメントを水平展開し、研究設備や実験操作の危険要因、災害時の避難経路や誘導灯、非常口、安全面等の洗い出しを行い検討しています。

来期は、これらを具現化していく計画です。一方、研究者の労働衛生については実験室の作業環境測定を実施しました。その結果、管理区分評価は第1管理区分となり問題ないレベルであることがわかりました。また、長年（10年以上）にわたる無災害が評価されて（社）日本化学工業協会から「無災害事業所 確認証 区分-1」をいただきました。今後も常に安全を念頭において研究開発業務に取り組んでいきます。



確認証



環境に対する影響（大気・水質）

大気に対する負荷

市川工場の燃料消費の中で重油の消費量は前年比約3%減少しました。また工場から出る副生油の燃料化を促進したことにより副生油は前年比4%増加しました。合計の消費量は前期比約2%減少しました。この結果、重油由来によるNOx及びSOxについては前年比減少しましたが、煤塵については粉塵濃度の測定条件の影響により、前期に比べ若干増加しました。

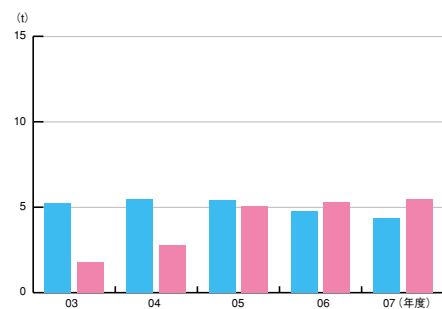
千葉工場は増設した溶剤回収用の蒸留設備が2007年10月から稼働し、これに伴い燃料消費量も増え燃料は前年比約5%増加しました。これらの影響でNOx、SOxの排出量も前年比増加していますが効率的な蒸気の使用を行い、NOx、SOxの低減に努めていきます。

水質に対する負荷

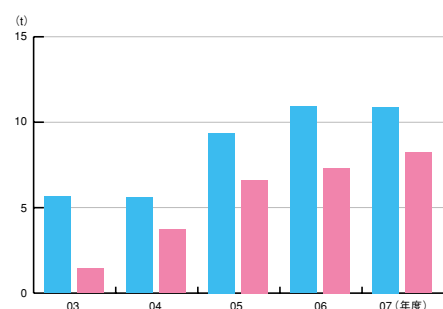
市川工場は2007年、生産工程から排出された廃水を自社処理が可能かどうかの判断を行うために簡易生物テストを行ってきました。この結果自社で処理できる廃水の種類が増え処理量も前年比約5%増加しました。処理量及び種類が増えたことにより、COD負荷量は前年比約40%増加しました。千葉工場のCOD負荷量は事故による工場停止で排出量が低下したことにより、前年比減少となりました。

環境に対する影響（大気・水質）

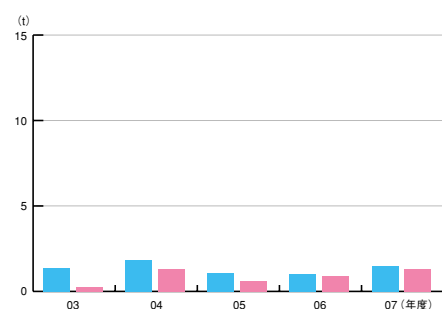
SOx排出量



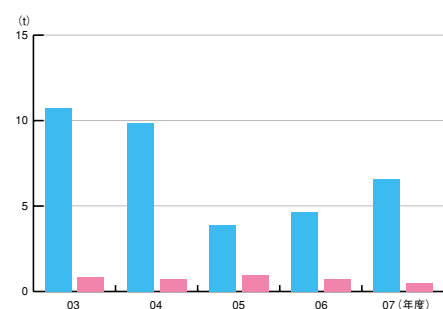
NOx排出量



ばいじん排出量



COD負荷



環境に対する影響（PRTR）

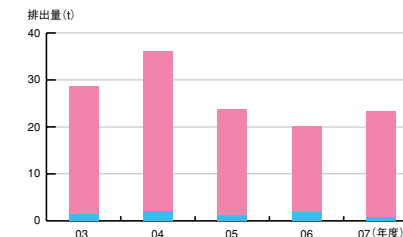


市川工場は、感光材製品の一部を千葉工場へ移管したことにより、PRTR対象物質の大気排出量のうち、2007年はベンゼン、N,N-ジメチルホルムアミドの排出はゼロとなりました。また1,4ジオキサンについても千葉工場での回収及び精製設備が本格稼働したことにより、2008年度の排出量はほぼゼロとなる予定です。

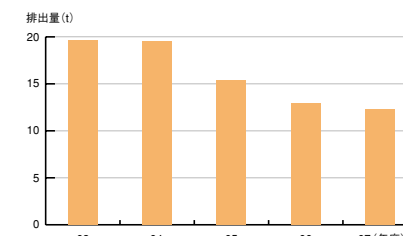
千葉工場では、感光材第二工場の稼働とともにPSA設備を設置し排ガスからのベンゼンを回収していますが、この他燃焼設備の稼働によりPRTR物質を含むVOC排ガスの大気への排出削減に努めております。高浜油槽所では、排ガス削減のため、タンクの断熱塗装やパーリターンを順次実施する予定です。

市川工場 千葉工場 高浜油槽所

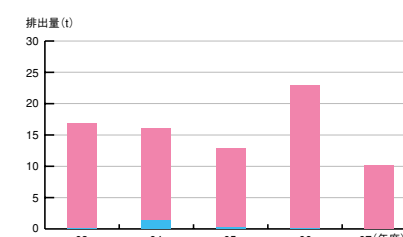
1,4ジオキサン



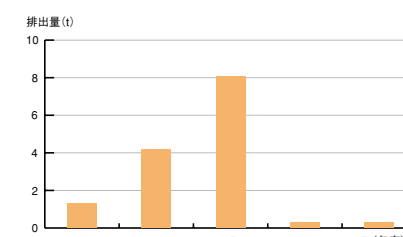
酢酸ビニルモノマー



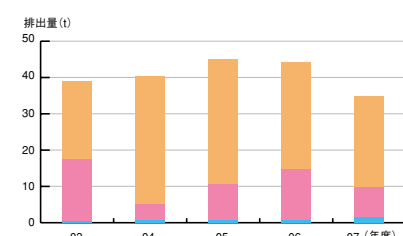
ジクロロメタン



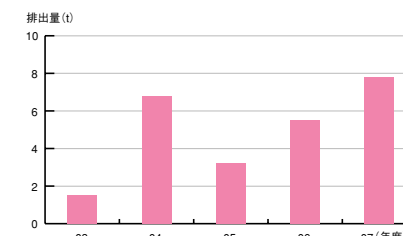
アクリル酸エチル



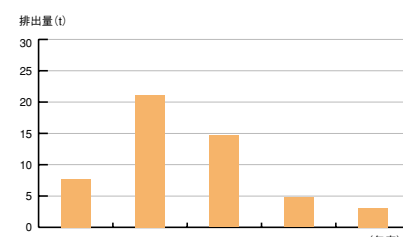
トルエン



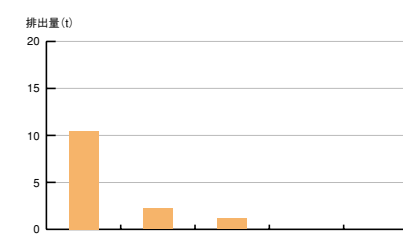
クロルメタン



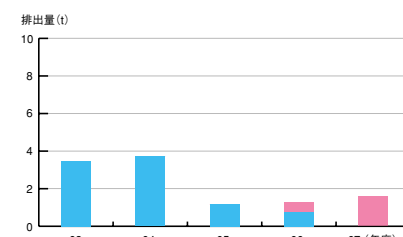
キシレン



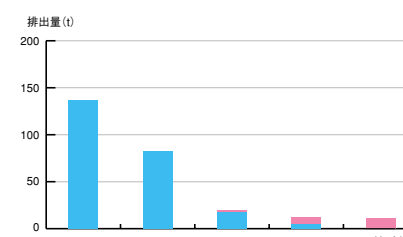
メタクリル酸メチル



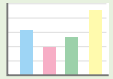
N,N-ジメチルホルムアミド



ベンゼン



環境に対する影響（PRTR）



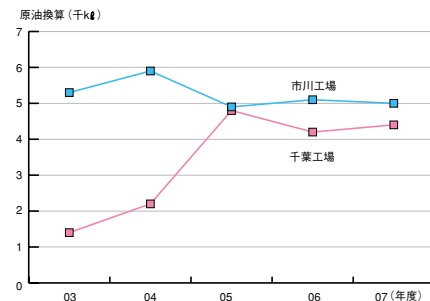
環境に対する影響（エネルギー）

燃料等の消費量

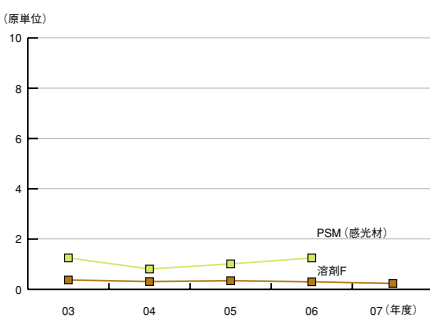
市川工場は重油の消費量が前年比約3%減少しました。これは千葉工場へ一部蒸留精製を移管したことにより、蒸気使用量が減少したことによるものです。また最近の原油価格高騰により、工場から排出する副生油を可能な限り燃料化してきました。この結果、前年比4%増の副生油を燃料化できました。

千葉工場は市川工場から移管した蒸留精製装置が稼働した結果、前年比約5%重油の消費量が増加しました。今後も燃料消費量を削減するよう、効率的な運転管理を進めていきます。

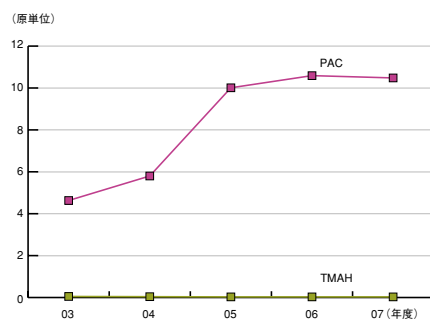
■事業所別 燃料等消費量の推移



■市川工場 燃料等原単位の推移



■千葉工場 燃料等原単位の推移

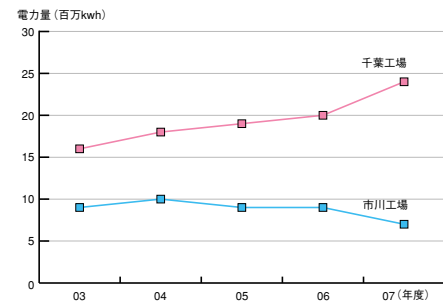


電力使用量

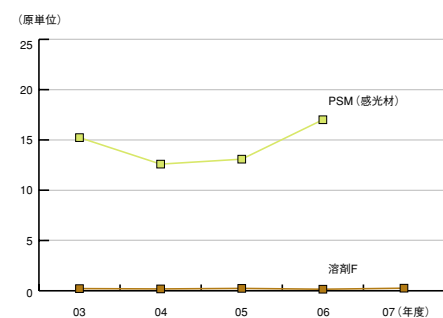
市川工場の総電力使用量は前年比約19%減少しました。部門別では化成生産部門が前年比21%増加しましたが、全体の減少要因は感光材生産部門の使用量の減少及び用役部門のボイラ設備の使用量減少によるものです。

千葉工場の電力使用量は電解液の生産増加及び第2感光材工場の本格稼働により、前期比20%の増加となりました。今後も引き続き効率的な使用に努めていきます。

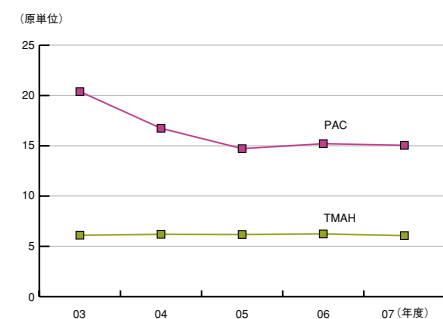
■事業所別 電力消費量の推移



■市川工場 電力原単位の推移



■千葉工場 電力原単位の推移



環境に対する影響（廃棄物及び再資源化）

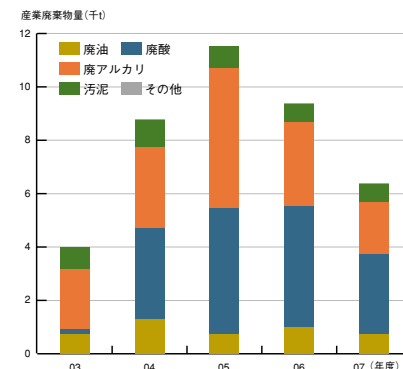


廃棄物の取組み

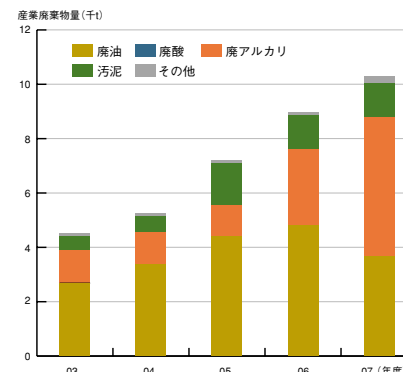
市川工場は前期、感光材の一部を千葉工場に移管したことにより廃酸及び廃アルカリは大幅に減少しました。さらに移管した感光材以外から排出される廃アルカリについて、自社処理化を促進した結果、前期まで外部委託処理していた香料材料関係の廃水について、自社処理が可能となり外部委託処理が前期比37%削減できました。また、廃油についても燃料化を促進したことにより外部委託量は約27%減少しました。引き続き減量化及び廃棄物の削減に取り組んでいきます。

千葉工場は感光材第2工場の稼働に伴い、新たに廃アルカリ廃水が発生したため、前期比大幅な増加となっています。今後も廃アルカリを含めた廃水の排出量削減と、廃油類の分別による再利用に努めていきます。

■市川工場廃棄物量の推移



■千葉工場廃棄物量の推移

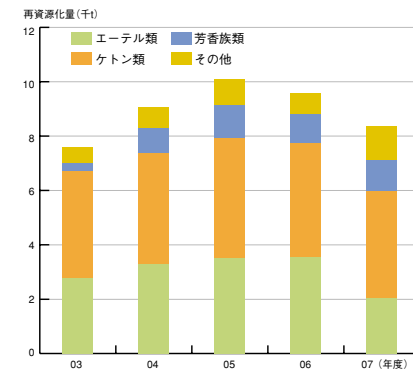


再資源化の取組み

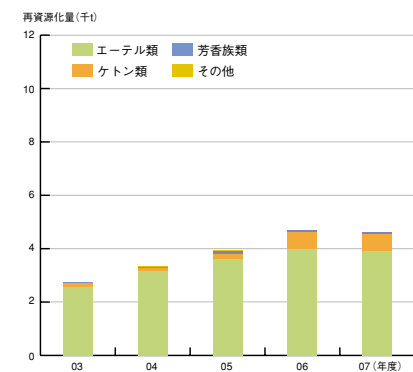
市川工場の再資源化の取組みは、VOC規制の動き及び環境影響への感心の高まりなどを受け、この分野の事業活動を積極的に展開してきました。この結果、新たな再資源化品目も増え同時に再資源化量を増加させることができました。再資源化品目は増加傾向にあり今後も事業活動を通して効率的回収で再資源化を進めていきます。

千葉工場は溶剤回収を進める中で、2007年10月からエーテル廃液の一つであるジオキサン廃液からジオキサンの回収精製も開始しました。また、第2工場では、排ガスからベンゼンを回収し、この回収したベンゼンを蒸留精製により再利用を行っています。

■市川工場再資源化量の推移



■千葉工場再資源化量の推移





環境への取組み

環境への取組み

臭気対策の実施と測定

市川工場ではドラム充填時に発生する有機溶剤排ガスの吸収設備、タンク洗浄時に発生する臭気の拡散防止対策を前年度に実施してきました。2007年度も引き続きタンクへ移送する際に発生する有機溶剤排ガスの吸収設備、及びタンクのプレザー弁から排出されるVOC(揮発性有機化合物)吸収管を新たに設置し、同時に工場周辺の臭気モニタリングと年2回の外部測定機関による臭気測定を行い効果の検証を行っています。



臭気測定

3Rの取組み

市川工場では従来、生産活動で排出されたプラスチックドラムを産業廃棄物として専門業者に委託し処理を行っていました。年間排出される本数はわずかですが2007年から3Rの一つであるリサイクル活動に取り組み、現在まで百本以上のプラスチックドラムをリサイクルすることができました。今後も引き続き種類を増やすなどの検討を行いリサイクルに取り組みしていきます。



廃プラスチック



破碎後のプラスチック

溶剤回収活動

千葉工場は微細加工用感光材製造工程から出る、水溶性有機溶剤を含む多量の廃液を産業廃棄物として外部専門業者に委託して処理を行っていましたが、工場内にプロジェクトチームを作り廃液の減量化に取り組みました。

この結果、水溶性有機溶剤と廃水を分離し回収ができるようになり、有機溶剤は燃焼炉の燃料に、また廃水は自社の廃水処理場で処理することが可能となりました。



溶剤回収設備

労働安全衛生の取組み



労働安全衛生の取組み

—労働安全衛生—

当社では、無事故・無災害を目標に、設備の安全対策、安全運転、安全教育、また労働災害の発生防止対策に積極的に取り組んできました。

しかし、昨年11月に千葉工場で発生した火災で、死傷者を伴う労働災害が発生し、度数率・強度率ともに過去最悪となりました。

当社ではこれを機に、第三者機関の客観的な指摘を踏まえて安全体制を根本から見直し、このようなことが二度と起きないよう万全な安全体制づくりを進めています。

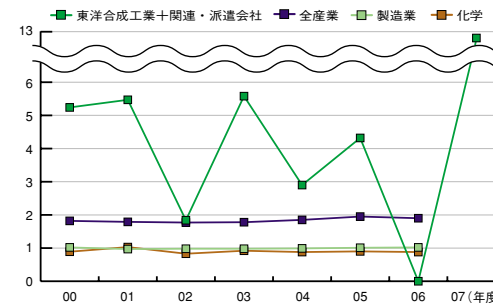


空気ボンベ取扱い講習

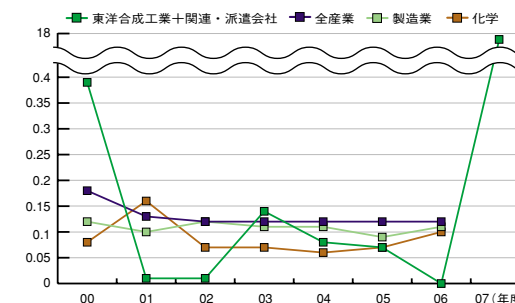


救命講習

■労働災害度数率の推移



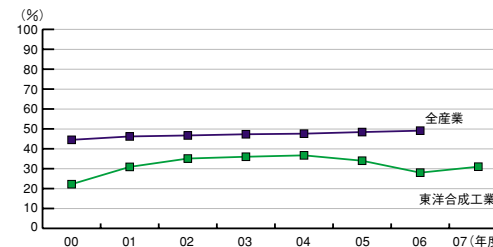
■労働災害強度率の推移



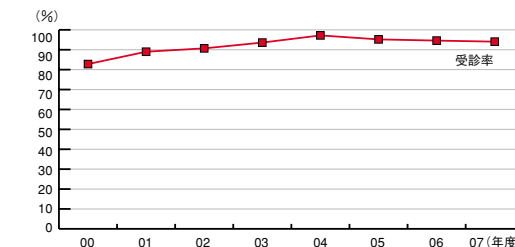
—健康管理—

当社では社員一人一人が自分の健康状態を把握し健康を保持することが必要と考えています。このためにまずは定期健康診断を全社員に受診してもらうことを目標に掲げていますが、2007年度の実受診率は昨年度より低下し、94.06%となりました。未受診者に対するフォローを徹底し、受診率の増加を目指します。

■有所見率の割合の推移(業種別)



■定期健康診断受診率推移





①化学物質の届出について

化学物質は、われわれ人々の生活にはなくてはならないものである反面、その使用方法を誤れば人々と環境に対して危害を及ぼすこととなります。このため、新規に化学物質を開発・製造・輸入する場合は、法律に従った手続きを行う義務があります。東洋合成工業では、国内の化学物質規制に関する法律（化審法、安衛法等）に則り、届出や確認を行っております。

また、諸外国におきましても、その国の法律に基づき、必要な手続きを実施しております。外国での大きな流れとして、欧州における化学品の登録・評価・認可・制限のためのREACH規則が2007年6月に施行されたことが挙げられます。当社も香料材料を中心に欧州に製品を輸出しており、REACH規則の対象となります。現在は、登録対象製品の洗い出しを終了し、2008年6月1日から11月30日までの予備登録期間に向けて最終的な準備をしている段階です。

②揮発性有機化合物（VOC）規制について

大気汚染防止法に基づき、事業者はVOC発生量の削減に自主的に取り組むことが求められています。弊社工場が所在する千葉県におきましても、『千葉県揮発性有機化合物の排出及び拡散の抑制のための取組みの促進に関する条例』が2008年4月1日付で施行されました。この条例では、2010年度までにVOCの排出量を2000年度比で3割削減することが目標として設定されております。

当社はこの条例の施行に先駆けて、各事業所でのさまざまな排出削減の取組みを行っています。市川工場では、対策会議を定期的開催し、吸着塔の設置やタンクの改造などの対策を進めております。千葉工場では、排出されるVOCを燃焼炉に送って燃焼させるVOC燃焼設備を2006年9月に導入するなどの対策を実施しております。高浜油槽所では、断熱塗装などの新たな技術の導入を積極的に進めております。今後も引き続きVOC排出の抑制のために、さまざまな対策を検討・実施し、抑制に努めてまいります。

③POPs条約について

POPsとは、難分解性、高蓄積性、長距離移動性、有害性（人の健康・生態系）を持つ物質のことを指します。POPsによる地球規模の汚染が懸念され、「残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約」（POPs条約）が2004年5月に発効されています。

我が国においては、POPsの製造・使用等を規制する化審法が既に1973年に制定されていること等、POPs対策に係る諸法令の整備は進んでいますが、今回、この条約で提案されました懸念物質についての調査が2007年5月に経済産業省により実施され、当社も社内調査を実施し、現状を正確に把握した上で報告を行っております。

④コーシャ認定について

コーシャとはヘブライ語で「ふさわしい」とか「適正な」という意味で、ユダヤ教の食事に関する掟「カシュルート（食事規定）」に即した適正食品をコーシャ食品と呼んでいます。そして、食品がコーシャの基準を満たしていることを保証するものがコーシャ認定です。この認定は主に原材料と製造施設の環境を基に判断されます。

当社は、コーシャ認定を取得しており、厳しい品質管理の下、対象となる製品を生産しています。



コーシャ認定証



工場見学

千葉工場では学生の社会科見学の 일환として工場見学の受け入れを行っていますが、11月に鶴岡工業高専の学生40名による工場見学が行われました。今回はVOC燃焼設備を中心に見学を行いました。学生からは無害化設備の充実と環境保護に対する企業の取り組み姿勢を評価する感想が多数寄せられました。



工場見学

東日本軟式野球（二部）香取支部大会 準優勝

千葉工場野球部は東庄町の代表として東日本軟式野球香取支部大会に出場しました。試合を通して地域との交流を深めながら掴んだ香取支部大会で見事準優勝に輝きました。



東日本軟式野球大会

文化事業への協賛

千葉工場のある東庄町は町民が芸術に接する機会拡大を図るため、オーボエ奏者 渡辺克也氏による、「渡辺克也オーボエコンサートin東庄」を平成20年8月9日（土）に計画しております。弊社千葉工場も地域文化振興のため今回の企画に協賛しております。オーボエに興味のある方、またコンサートをぜひ聴いてみたいという方は東庄町教育委員会にお問い合わせください。



コンサートポスター

地球環境保護キャンペーン

弊社では読売写真ニュースの「地球環境保護キャンペーン」に賛同し、地域の子供や学生さんに環境保護に対する意識啓蒙の支援として校内に写真ニュースを掲示させていただいています。これまで千葉工場のある東庄町の小学校を中心に行っていましたが、2007年から新たに市川南高校と信篤小学校に掲示させていただきました。後日先生はじめ子供達から感謝の手紙が届きました。



ニュースを見る子供たち

東庄ふれあい祭り

20回目を迎えた東庄ふれあい祭りに千葉工場は地域社会とのコミュニケーション活動の一環として昨年も参加をしました。毎年多くの地元の方が祭りに参加し、弊社社員も住民の方々とふれあいを通して楽しい一日を過ごすことができました。



ふれあい祭り

地域内清掃活動

市川工場では地域協議会の呼びかけによる清掃活動に参加しています。活動は年2回行なわれ2007年秋の活動で21回を数えました。活動は主に自社の工場周辺、及び幹線道路に沿った歩道や植え込みを中心に清掃を行っています。清掃のたびにたくさんのゴミが回収されており、運転者や歩行者のマナーの低さが見受けられます。今後もクリーンな街づくりのため、地域の清掃活動に参加し貢献していきます。



清掃活動